1．化学物質等及び会社情報

製　　品　　名： トーヨーケミルーフマット M－450MM、380MM
会　　　　　社： 東洋ゴム化工品株式会社
住　　　　　所： 東京都新宿区天神町10番地 安村ビル
担 当 部 門： 防水資材販売部
電 話 番 号： 03-3235-1713 ﾌｧｯｸｽ番号 03-3235-1500

2．組成、成分情報

単一製品･混合物の区別　（ 単一製品 ・ 混合物 ）
一般名　ガラス長繊維製品

含有成分 化学名	Eガラス	収束剤 (内容非開示)
含有量	95％	5．0％
官報表示化審法 整理番号	非該当	非公開
CAS No.	65997－17－3	非該当
PRTR法	非該当	非該当
労働安全衛生法 通知対象物質	非該当	非該当

3．危険有害性の要約

最重要危険有害性及び影響 ： ガラス繊維は、静電気を帯びやすい性質があります。
例えば、ロービングやクロスのガラス繊維製品をガイドやゴムロール等に通して運転する作業では、製電気が起こります。
静電気のアークが火種になる場合があります。また、作業者が静電気に触れて驚き、二次災害を起こすとも考えられます。必ずアースを取るとるか、静電気除去装置を取付けるなどの対策を行なって下さい。

人の健康に対する有害な影響 ： ガラス繊維製品や作業中に飛散したガラス繊維に触れると皮膚、目、喉や鼻などに一時的にかゆみや痛みを引き起こすことがあります。

分 類 の 名 称： 不明

4．応急措置

目に入った場合： 清浄な水で最低15分間、流し洗いをして下さい。み￥もし、痛みが残るようであれば、医師の診断を受けて下さい。

皮膚に付着した場合： 絶対にこすらず、皮膚に刺さった場合には、毛抜きで刺さったガラス繊維を折らないように注意して抜いて下さい。まず、流水で洗い、ついで温水を用いて石鹸で洗って下さい。入浴はガラス繊維を除去するのに効果があります。

吸入した場合： 清浄な水で10回位うがいをして下さい。また、軽く鼻をかんで下さい。もし、鼻や喉にかゆみや痛みなどの異常が残るようであれば、医師の診断を受けて下さい。

飲み込んだ場合： 吐き出させ、水で良く口を洗って下さい。もし、吐き出せないなどの異常があれば、医師の診断を受けて下さい。

5．火災時の措置

消　火　剤： ガラス繊維自体は、水、炭酸ガス、泡、ドライケミカル、粉末のいずれも有効です。但し、まわりの状況（発火原因など）によって、適切な消火剤を選定して下さい。

その他の情報 ： ガラス繊維自体は不燃性ですが、繊維上に加工した表面処理剤等には可燃製の物が含まれます。

6．漏出時の措置

人体に対する注意事項： 必要に応じて、保護マスク、保護手袋、保護眼鏡を着用して下さい。
環境に対する注意事項： 特になし。
除　去　方　法 ： 床面などにこぼれた場合は、速やかに粉塵が飛散しないよう静かに清掃し、空容器や袋等に詰めて、一般的な産業廃棄物と同様の扱いとして下さい。

7. 取扱い及び保管上の注意

取　扱　い： 吸い込んだり、眼、皮膚に出来る限り触れないようにして下さい。
必要に応じ手袋、保護眼鏡（ゴーグルタイプが望ましい）、防塵マスク（国家検定品：取替え式、使い捨て式）をお使い下さい。

保　管： 製品は、直射日光が当らず、高温多湿とならない屋内に保管して下さい。
保管条件が不適切な場合に、ガラス長繊維製品の表面処理剤等の加工剤に変質を生じ、所定の性能が得られなくなる場合があります。

8. 暴露防止及び保護措置

設 備 対 策： 粉塵を発生する切断・研磨等の作業、ミルドファイバー等の粉体状の製品の取り扱い作業などを行なう場所には、局所廃棄装置を設置してください（設置が困難な場所でこれらの作業を行なう場合には、防塵マスク（国家検定品）を着用して下さい）。また、洗顔・洗身・うがい・更衣・選択設備等の設置が望ましい。

管 理 濃 度： ガラス長繊維製品は鉱物に該当し、粉じん則の規定に該当する作業場の場合は、遊離珪酸が%であるから、吸入性粉じん管理濃度は、2．9mg/m^3となります。
M＝2．9／（0．22Q＋1）　（M：管理濃度、Q：粉じん中の遊離珪酸含有率（%））

許 容 濃 度： ガラス繊維粉じんは、第3種の粉じんに該当し、許容濃度を次のように定めています。

吸入性粉じん	2mg／m^3	日本産業衛生学会勧告値　（2002年度版）
総粉じん	8mg／m^3	日本産業衛生学会勧告値　（2002年度版）
TLV-TWA	5mg／m^3	ACGIH　（1997年度版）

保　護　具： 作業環境を考慮して、必要に応じて、次の保護具をお使いください。

呼吸用保護具	防塵マスク（国家検定品：組替え式・使い捨て式）
保護眼鏡	保護眼鏡（ゴーグルタイプ）
保護手袋	皮手袋等ガラス繊維を通しにくいもの
保護衣	上衣：袖付き長袖（手首のしまった）ゆったりしたもの
	下衣：長ズボン（足首のしまったもの）

9. 物理的及び化学的性質

物 理 的 状 態： ガラス繊維集合体（白色の織物）
臭　気： 無臭
融 点 （ ℃ ）： （軟化点）　約840℃
密 度 （25℃）： 約 2．5 （塊状）
溶 媒 溶 解 性： ほとんど溶けない

10. 安定性及び反応性

安　定　性 ： 化学的に安定で反応性はありません。
危険有害な分解生成物 ： ガラス繊維自体は不燃性ですが、繊維上に加工した表面処理剤等は、一般に可燃性で燃焼時には炭酸ガス・水の発生が予想されます。

11. 有害性情報

刺激性（皮膚・眼）： 直接接触時に、物理的刺激があるが毒性はない。
急 性 毒 性： 知見なし
亜 急 性 毒 性： 知見なし
が ん 原 性： 国際ガン研究機関（IARC）では、区分3（ヒト発ガン性について分類し得ない）。

12. 環境影響情報

特になし。

13. 廃棄上の注意

廃棄方法は、一般的な産業廃棄物と同様に取り扱って下さい。
その他関係法令の定めるところに従って下さい。

14. 輸送上の注意

輸送上の注意は特にありません。
但し、品質上梱包等が破損しないように水漏れや乱暴な取り扱いを避けて下さい。

15．適用法令

消防法	危険物 ： 非該当
労働安全衛生法（労衛法）	通知対象物 ： 非該当
	表示物質（57条の2第1項） ： 非該当
PRTR法	非該当

16．その他の情報

1） 注意事項

① 主として2．組成、成分情報に示す物質から構成されている安定した無アルカリガラス製品です。

② 化学物質管理促進法（PRTR法）施工例別表第1の第1種指定化学物質として「ホウ素及びその化合物」があげられており、ガラス長繊維は、「ホウ素」として1％以上を含有した「ガラス製品」ですが、PRTR法には以下の理由で該当しません。

・「ガラス」は、化学物質の名称ではありませんので、PRTR法の対象物質とはなりません。

・通常のご使用の範囲であれば、PRTR法の届出の対象にはなりません。

但し、お取扱の過程で、融着、蒸発又は溶解等を伴う工程においては、当該化学物質の排出量、移動量の届出が必要となりますので、ご注意をお願い致します。

2） 参考文献

①「ガラス長繊維の人体に及ぼす影響」 硝子繊維協会 平成5年3月発行
②「硝子繊維及びロックウールの労働衛生に関する指針の解説」
硝子繊維協会・ロックウール工業会 平成5年6月発行
③「ガラス繊維の労働衛生に関する指針マニュアル」 硝子繊維協会 平成5年8月発行
④「人口鉱物繊維（MMMF）繊維数濃度測定マニュアル」
硝子繊維協会・セラミックファイバー工業会・ロックウール工業会 平成4年8月発行
⑤「許容濃度等の勧告（2000）」 農業衛生学会誌 42巻-130
⑥ 「ガラス長繊維製品の取扱説明書」 硝子繊維協会 平成８年８月発行
⑦ 「Threshold Limit Values and Biological Exposure Undices 1997」 ACGIH
⑧ 「Occupational Safety and Health Series No.64 (1990)」 ILO (翻訳版)